

ワールドキャンパスインターナショナル
2010 年度プログラム
概要報告



<目 次>

1 . 2010 年度事業の全体概要	
(1) 2010 年度事業の全体概要	1
2 . ツアープログラムの概要	
(1) ツアープログラムの全体概要	2
(2) 第 1 セッション	4
(3) 第 2 セッション	6
(4) 第 3 セッション	8
(5) 第 4 セッション	10
(6) 第 5 セッション	13
3 . 他プログラムの概要	
(1) 吹田 “万博” プロジェクト	16
(2) 来日オリエンテーション	16
(3) ティーチャーズイニシアティブ (仮称)	17
(4) 異文化チームビルディングワークショップ	18
4 . 今回の成果と今後の課題	
(1) 昨年度整理した課題への対応	19
(2) 成果	19
(3) 課題	20
(4) 関係者の感想	21

参考資料

- ・ 参加者リスト
- ・ 各地 LOC 等協力組織 (代表) リスト
- ・ スタッフリスト
- ・ 協力企業・団体等

1. 2010 年度事業の全体概要

(1) 2010 年度事業の全体概要

今年度は、従来のツアープログラムに加え、今後の展開も念頭に置いた数種類の実験プロジェクトを実施した。

全体の概要は以下のとおり（時系列）。

事業	日程	都市名	参加者	内容
吹田“万博”プロジェクト	3/10～3/16	吹田市	過去参加者 7 カ国 10 名	大阪万博 40 周年記念の ABC フェスタへの参加
来日オリエンテーション	3/25～3/29	荒尾市	アジア太平洋 大学 (APU) 留 学生 9 名	留学生の来日時(入学前)の日本での生活入門トレーニング
ティーチャーズ イニシアティブ (仮称)	4/18～4/25	荒尾市	米国教員 4 名	日本の学校の実体験と日米の教育システム比較
異文化チームビルディングワークショップ	4/25	東京都内	国内大学生 27 名	社会で役立つコミュニケーションスキルとリーダーシップ研修
ツアープログラム	6/5～8/30 5 セッション制	11 都市	19 カ国 39 名	詳細は次ページ以降



2. ツアープログラムの概要

(1) ツアープログラムの全体概要

スケジュール

参加者の効率的な確保とプログラム充実の観点から、今年度より“ツアー”型プログラムは夏季のみの実施とした。また、各地 LOC の合意による日程調整を図るため、2009 年末に第 1 回 LOC フォーラムを実施した。

フォーラムを実施した前年末から夏のツアー実施まで半年間があり、共通の情報のもと、スケジュール調整や企画準備に時間をかけることができた。

1 セッション 2 週間(セッション間はブレイク)の基本設定は事業運営、参加者満足度の双方の観点から有効であることを再確認した。

一方で、想定以上に 6 月の参加者募集は困難であることが判明した(6 月上旬から 3 ヶ月間のプログラムは非効率)。

LOC フォーラム：各地の協力組織“ローカルキャンパス”(LOC)のメンバーが集まり、情報共有・意見交換を図ることで、その主体的な参画や相互連携を支援する。

【2010 年ワールドキャンパスジャパンプログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第 1 セッション	6 月 5 日～6 月 16 日	熊本県荒尾市 ・熊本市	うどん打ち体験、こうのとりゆりかご、弓道体験、熊本城
	6 月 16 日～6 月 19 日	広島県広島市	平和記念館
第 2 セッション	6 月 23 日～7 月 1 日	長崎県大村市	障害者イベント参加、原爆資料館、少林寺拳法体験
	7 月 1 日～7 月 7 日	奈良県宇陀市	自然ウォーク、日本刀鑑賞、座禅体験、室生寺、東大寺
第 3 セッション	7 月 11 日～7 月 19 日	長野県上田市	給食センター見学、そば打ち体験、上田城見学
	7 月 19 日～7 月 25 日	茨城県取手市	商店 PR 支援、凧揚げ大会、クボタ見学
第 4 セッション	7 月 29 日～8 月 6 日	東京都多摩市	東京大学生ツアー、おじさま・おばさま交流、AED 講習
	8 月 6 日～8 月 12 日	愛知県豊田市	田んぼ体験、トヨタ見学、移民問題ディスカッション
第 5 セッション	8 月 16 日～8 月 24 日	茨城県水戸市	高齢者施設交流、原発施設見学
	8 月 24 日～8 月 30 日	千葉県我孫子市	環境ウォーク、子ども企画による交流、地元夏祭り参加

(参考)

【2009年春季プログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第1セッション	3月9日～3月17日	大阪府吹田市	EXPO イベント、関大サークル体験
	3月17日～3月23日	奈良県宇陀市	自然体験、伝統文化(茶、刀等)体験
第2セッション	3月26日～4月4日	千葉県我孫子市	環境ウォーク、子ども企画による交流
	4月4日～4月9日	愛知県豊田市	トヨタ見学、在日外国人ディスカッション
第3セッション	4月12日～4月20日	長崎県大村市	障害者イベント、原爆資料館見学、武道体験
	4月20日～4月26日	熊本県熊本市	水俣病施設・赤ちゃんポスト等訪問

【2009年夏季プログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第1セッション	7月5日～7月13日	長崎県大村市	小学校教師体験、原爆資料館見学、武道体験
	7月13日～7月21日	東京都多摩市	多摩/メトロポリタンツアー、障害者施設
第2セッション	7月25日～8月4日	茨城県水戸市	高齢者施設交流、ウォークラリー
	8月4日～8月12日	茨城県取手市	商店街PR支援、凧揚げ大会
第3セッション	8月16日～8月25日	熊本県荒尾市	地域遺産PR支援、熊本城ウォークラリー
	8月25日～8月31日	広島県広島市	平和記念館見学、お好み焼き体験

参加者

12月と3月の2回にわたり、欧米でのリクルート活動を実施した(アメリカ、ベルギー、スイス、ドイツ、フィンランド、デンマーク、オランダ等)。

上記のような国で過去の参加者が増え、特に大学での説明会設定が容易になってきた(同じ大学からの参加が継続しており、今年は特に日本語勉強中、女性、若年が多かったことが特徴だった)。

国内では、名古屋外国語大学や早稲田大学など、協力者が増えているが、説明会実施にとどまらず、きめ細かいフォローアップや横のネットワーク化の必要性を再認識した(説明会出席者は増えたが、実際の参加者は少数にとどまった)。

米国を除き、6月初旬の参加者確保は難しいと判断した(ただし、プログラム紹介代理店の仲介による米国からの参加者は増加傾向にある)。

参加者数：19 カ国、39 名（各セッション人数：5、15、14、12、8）*スタッフ 4 名除く

累計 181 名、36 カ国：アメリカ、カナダ、メキシコ、ベネズエラ、ブラジル、ポルトガル、イギリス、ドイツ、オーストリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ、イタリア、スイス、デンマーク（グリーンランド含む）、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、ロシア、ウズベキスタン、キプロス、トルコ、カタール、ケニア、ウガンダ、オーストラリア、ニュージーランド、パキスタン、ネパール、インドネシア、ミャンマー、モンゴル、韓国、中国（香港含む）、台湾、日本

（参考）

2007 年度プログラム：15 カ国、39 名

2008 年度春季プログラム：13 カ国、23 名

2008 年度夏季プログラム：12 カ国、22 名

2009 年度春季プログラム：14 カ国、23 名

2009 年度夏季プログラム：18 カ国、35 名

(2) 第 1 セッション

スケジュール

日付	概要
6 月 5 日(土)	福岡空港 荒尾集合、対面式
6 日(日)	ホストファミリーデー
7 日(月)	オリエンテーション（暮らしガイド、イベント準備等）
8 日(火)	” （荒尾紹介、イベント準備）
9 日(水)	ありがとうイベントとディナー
10 日(木)	移動（自由時間@グリーンランド） 熊本、対面式
11 日(金)	手打ちうどん体験、午後休日 希望者オプション：熊本城ツアー
12 日(土)	ありがとうイベント
13 日(日)	ホストファミリーデー
14 日(月)	慈恵病院「こうのとりのゆりかご」見学とディスカッション
15 日(火)	チームビルディングワークショップ、弓道体験
16 日(水)	移動 広島、対面式
17 日(木)	平和記念資料館見学とディスカッション
18 日(金)	ありがとうイベントとポットラックパーティ
19 日(土)	福岡空港・広島駅解散

ハイライト

熊本県荒尾市・熊本市

初めて荒尾市と熊本市の2地域 LOC の共同による実施となった。新しい試みに伴って、荒尾紹介としての誕生寺奥の院にある世界最大の梵鐘つきや移動日のグリーンランド（遊園地）での自由時間、熊本での弓道体験など新しい企画も実施できた。

- ・ 組織力や資金力などの理由から元々関係の深い2LOC による合同実施となったが、物理的に距離があることから、イベントを別々に2回開催する必要があったこと、そのために地域企画が限定されたことなど、構成上の課題が残った。
- ・ 参加者人数が少なかったことは事業として問題だったが、セッション全体を通じてチームビルディングを図ることができ、グループ内外ともに非常に密接で深い交流を行うことができた。



広島県広島市

広島での協力団体との調整により、実質的に2日間という短期滞在となったため、原爆関係の学習活動とありがとうイベントのみを実施した。

- ・ ホストファミリーデーや休日も組み込むことができなかつたため、原爆以外の広島について知ることができなかつたことが残念だったという意見が多かつた。



参加者の感想

< 最も心に残った活動 >

- ・ 慈恵病院での院長先生のお話

- ・ 平和記念資料館での語り部のお話
<感じたこと> (一部)
- ・ ホストファミリーでの滞在がこれほど心に残ることになるとは想像していなかった。一生続く交流ができた。
- ・ スペインバーでの手打ちうどん体験、熊本城ツアー、カラオケ(ホストファミリーやLOCとともに)という1日の流れは楽しくて完璧だった!
- ・ 広島での滞在が短かすぎた。
- ・ セッションを通じて休日が少なすぎた。



(3) 第2セッション スケジュール

日付	概要
6月23日(水)	長崎空港 大村集合、対面式
24日(木)	オリエンテーション(暮らしガイド等) 大村市長表敬
25日(金)	〃 (イベント準備)
26日(土)	少林寺拳法体験
27日(日)	ホストファミリーデー
28日(月)	休日 希望者オプション:長崎原爆資料館ツアー
29日(火)	小学校体験(竹松小学校)
30日(水)	障害者イベント「ふれあいの集い」参加、ありがとうイベント
7月1日(木)	移動 宇陀、対面式
2日(金)	宇陀紹介、高齢者余暇施設「元気村」周辺ネイチャーウォーク
3日(土)	休日 希望者オプション:東大寺ほか奈良ツアー、夕方からHF交えて日本刀鑑賞会+懇親パーティ
4日(日)	ホストファミリーデー
5日(月)	高齢者福祉施設「室生園」訪問、室生寺見学
6日(火)	室生小学校訪問、座禅体験、ありがとうイベント
7日(水)	関西空港・大阪駅解散

ハイライト

長崎県大村市

少林寺拳法体験、小学校一日滞在、障害者イベント参加が毎年の恒例企画としてほぼ固まり、各協力先の関わり方が深化しており、一つ一つの内容が濃くなっている。

- ・ 少林寺拳法は説明と実習にメリハリがあって退屈させず、すべてが終わった後の質疑応答により、しっかりと体験の全体を消化することができた。また、小学校体験でも、学校側の完全協力によるスムーズな進行に加え、終了後、多くの教師の皆さんと教育について意見交換できたことが非常に有意義だった。
- ・ 日程の都合上、従来は正式企画の一つだった原爆資料館見学が休日のオプションになったが、街の情報も限られ、参加者同士もまだ互いをよく知らず、休日の計画が立てにくい段階だったため、参加者全員が参加して大変好評な設定となった。



奈良県宇陀市

自然と歴史・伝統で全体が統一されており、ネイチャーウォーク、室生寺見学、日本刀鑑賞といった恒例の企画で安定している。このほか、高齢者福祉施設と小学校への訪問で地域住民との交流を行っている。

- ・ 例年行われている日本刀鑑賞とお寺（LOCメンバー宅）でのパーティを同日に設定し、ホストファミリーも参加可能としたため、地域の皆さんも地域資源を見直し、また全参加者と交流することができる機会にもなった。
- ・ 同年代の若いご住職のご説明を頂いた上での座禅体験は親しみやすい参加型企画となり、前日の室生寺見学と合わせて、さまざまな角度から仏教について考える機会となった。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 小学校体験、ふれあいの集い
- ・ 座禅体験、愛情のこもった美味しい食事！

<感じたこと> (一部)

- ・ 都会(長崎)での自由時間は変化があってよい。一方で、このセッションは都会と田舎のコントラストにやや欠けたことが残念だった(=より大きな都市に行く機会が欲しかった)という意見もあり。
- ・ ふれあいの集いを通じて、障害者の方に対する自分の不安感と向き合うことができた。とにかく、彼らのエネルギーに圧倒された。自国でも関わってみたい。
- ・ 大村と宇陀の企画がよく練られていて、2地域のバラエティが非常に良かった。



(4) 第3セッション

スケジュール

日付	概要
7月11日(日)	成田空港 上田集合、対面式
12日(月)	上田市表敬訪問、上田紹介(上田城址、柳町等) オリエンテーション(暮らしガイド、イベント準備等)
13日(火)	給食センター見学+給食体験、障害者施設「とんぼハウス」訪問、文化施設「音楽村」・ラベンダー村見学
14日(水)	オリエンテーション(イベント準備)
15日(木)	そば打ち体験、丸子北中学校訪問
16日(金)	各国料理自慢、ありがとうイベント
17日(土)	休日
18日(日)	ホストファミリーデー
29日(月)	移動 取手、対面式
20日(火)	老舗訪問・PR制作、老舗プレゼン+地元高校生の取手プレゼン
21日(水)	クボタ工場見学、日本文化体験

22日(木)	凧作り・凧揚げ（ホストファミリーも参加）
23日(金)	プログラムまとめ、ありがとうイベント
24日(土)	ホストファミリーデー
25日(日)	成田空港・日暮里解散

ハイライト

長野県上田市

農業と食をテーマにして、最新式の給食センターで日本の“食育”の考え方を学び、各国の学校での食事情について意見交換するとともに、そば打ち体験や各国料理披露などの参加型の企画を実施した。

- ・ 日本の料理（＝文化）を実体験できる企画と、自国の料理を披露する企画は一对で参加者・地域の双方に大変好評だった（給食システムも活用した食育・環境教育の考え方は日本独特で参加者の関心が非常に高かった）。
- ・ そば打ち体験とセットで農作業の手伝いを準備していたが、雨天で実現できなかったため、今後は是非、地域の皆さんと直接に交流し、地域に寄与するような機会の拡充に期待したい。



茨城県取手市

老舗のPR素材制作と凧作り・凧揚げをメインにしなが、地元高校生や文化指導の方などの地域の皆さんとの交流も行った。また、これまでのキャノンに代わり、今回はクボタの工場を見学した。

- ・ 全ホストファミリーと一緒に凧作り・凧揚げは運営が非常にスムーズになっており、参加者・地域住民の双方が作成過程やその間の交流、利根川河川敷での凧揚げ自体を十分に楽しめている。
- ・ 老舗PRとして、今回は4店舗のビデオ、パンフレットなどを作成したが、今後は次段階として、その有効活用方策も検討できるとよい。また、今回のように高校生による取手紹介を同日に設定するのは発展が期待でき、2つの企画が有機的に連携できると、内容がより深まるかもしれない。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ そば打ち、各国料理づくり
- ・ 凧作り・凧揚げ

<感じたこと> (一部)

- ・ 自国の料理を作って、ありがとうイベントで食べてもらえたのは、感謝の印として最適な構成になったと思う。
- ・ 凧揚げは自国にもあるし、子どもの頃にやったこともあったが、これほど楽しくて気持ちの良いものだと感じたことがなかった。無心になれた。一日の流れもとても良かった。
- ・ 工場見学は既製のツアーのようで、あまり印象に残らなかったのが残念だった。
- ・ 高校生のプレゼンは街のことではなく、学校のことだったので、そうであれば学校に実際に行っても良かったのかもしれない。



(5) 第4セッション

スケジュール

日付	概要
7月29日(木)	成田空港 多摩集合、対面式
30日(金)	オリエンテーション(暮らしガイド、イベント準備) 多摩紹介(エコにこセンターツアー、多摩市長表敬訪問)
31日(土)	オリエンテーション(イベント準備等)
8月1日(日)	ホストファミリーデー
2日(月)	国士館大生による AED 講習、外国語学習中市民との交流(持寄りパーティ、日本文化体験:書道、茶道、囲碁将棋等)

3日(火)	中大生と東京探訪“メトロポリタン”ツアー
4日(水)	休日
5日(木)	子どもイベント、ありがとうイベント
6日(金)	移動 豊田、対面式
7日(土)	“おむすび通貨”体験：田んぼ草取り、夏祭り準備手伝い、地域通貨レクチャー
8日(日)	ホストファミリーデー
9日(月)	休日 希望者オプション：名古屋外大生ガイドによる名古屋城・大須商店街ツアー
10日(火)	トヨタミュージアム、移民児童支援 NPO「子どもの国」訪問・ディスカッション
11日(水)	市民親子クッキング・工作教室、ありがとうイベント
12日(木)	中部空港・名古屋解散

ハイライト

東京都多摩市

大学が多いという地域の特徴を活かし、中央大学の学生を中心に企画した東京探訪ツアーに加え、国土舘大学が地域で実施している AED 講習にも参加した。また、当 LOC はすべての世代との交流をテーマとしており、夏休み中の子どもたちとゲームをする“子どもイベント”を実施した。

- ・ 大学生の東京探訪ツアーや外国語学習中の市民との交流会は協力者の皆さんも運営ノウハウを蓄積し、質向上を目指す段階に進んでいる。国土舘大学との交流も有意義で、地域も巻き込む新たな展開が期待される。
- ・ 子どもイベントも大変好評だったため、従来の小学校体験同様、メイン企画の一つになるよう充実できるとよい。大学生、中年・壮年世代、子どもという多世代をつなげることも考えられる。



愛知県豊田市

豊田市を立体的に捉えるため、トヨタ以外の側面も知ることができるよう、地元組織の協力を得て、足助地区の自然環境や歴史文化に触れることができる企画

を取り入れた。また、より多くの地域住民が国際交流のきっかけを得られるよう、夏休み中の一般の親子が参加できる企画も実施した。

- ・ 地域通貨“おむすび通貨”の事務局のご協力により、田んぼの草取りと夏祭り“たんころりん”の灯籠設置の手伝いをさせて頂き、地域通貨の活動経緯と仕組みなどの説明を頂いた。今後はホストファミリーなどの参加も積極的に呼びかけ、地元を見直すきっかけになるような展開を目指したい。
- ・ 休日のツアーガイドを含め、名古屋外大の教員・学生の皆さんから全般的な協力を得ることができた。今後は外大と豊田市民との結びつきが生まれるような方向も期待される。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 東京メトロポリタンツアー
- ・ 田んぼの草取り

<感じたこと> (一部)

- ・ 外国語学習中の市民との交流(多摩)や親子工作教室(豊田)のように、地域の人と一緒に参加型の文化体験は非常に楽しい。
- ・ 自国と比べ、日本の環境に配慮した取組みに感心した(エコにこセンター見学等を通じて)。
- ・ 田んぼに入る経験は文字通り“二度とない”経験で(二度としたくない;笑) 本当にいろいろなことを考えた最も貴重な体験になった。



(6) 第5セッション

スケジュール

日付	概要
8月16日(月)	成田空港 水戸集合、対面式
17日(火)	オリエンテーション(暮らしガイド)、水戸紹介(茨城大生の偕楽園ツアー)
18日(水)	〃 (ホストファミリー交流ランチ、イベント準備)
19日(木)	特別養護老人ホーム「すずらん苑」訪問
20日(金)	原発施設見学・ディスカッション
21日(土)	ホストファミリーデー
22日(日)	ありがとうイベント
23日(月)	チームビルディングワークショップ、午後休日
24日(火)	移動 我孫子、立ち食いソバ体験、各国料理披露、対面式
25日(水)	谷津散策、環境ワークショップ、カレーパーティ
26日(木)	休日
27日(金)	かっぱ祭り準備、日本文化体験(子ども先生と着付け、茶道)
28日(土)	かっぱ祭り(流しそうめん、パフォーマンス、盆踊り、竹灯籠準備)
29日(日)	ホストファミリーデー
30日(月)	成田空港・日暮里解散

ハイライト

茨城県水戸市

地域特有の要素としての原子力発電所の施設見学に加え、例年良い交流ができていた高齢者施設を訪問させて頂いた。また、今回は茨城大学教授のご協力を得て、偕楽園ガイドやチームビルディングなどにゼミ生の参加を頂いた。

- ・ 第一都市としてのオリエンテーションにも茨城大生やホストファミリーの子どもたちが参加可能だったため、ありがとうイベントに地域の皆さんが参加する最初のケースとなった。
- ・ 茨城大生が当初計画と異なり高齢者施設や原発施設に行くことができなかったため、最終日の意見交換・まとめはチームビルディング活動に切り替えたが、ワークを通じて異文化にある同世代の意識の違いを感じることができた。



千葉県我孫子市

一貫して環境をテーマとしており、例年の谷津散策に今回は環境に関するワークショップを加え、放置竹林を伐採・活用した竹灯籠のPRにも協力した。また、地元の夏祭りであるかっぱ祭りの時期に重なったため、ホストファミリーにも参加を呼びかけ、ありがとうイベントの代替とした。

- ・ 地元企業のご協力による駅構内の立ち食いソバ体験、谷津を守る活動を行っている市民団体によるレクチャー、子どもたちと一緒に本格的な茶道体験、かっぱ祭りへの参加など、地域の多様な団体との協働が広がっている。
- ・ ありがとうイベントを実施しない唯一のケースとなったが、こうした場合の地域への感謝の表し方（活動のまとめ方）について検討する必要がある。



参加者の感想

< 最も心に残った活動 >

- ・ 特別養護老人ホーム訪問
- ・ 環境ワークショップ、かっぱ祭り

< 感じたこと > (一部)

- ・ 水戸でありがとうイベントに地域の大学生や子どもたちが一緒に参加できたことは非常に良かった。
- ・ かっぱ祭りはプログラムの最後にふさわしかったが、我孫子では毎日遅くまでの活動でホストとの時間があまり持てなかったのが残念だった。

- ・ 原発施設や谷津など外部人材によるレクチャーについて、LOC と WCI で事前に参加者の期待と理解力、先方の伝えたいこととその方法をすり合わせておく必要があるのではないか（ミスマッチになると双方が残念に思う可能性がある）。



ジャパンタイムズ誌 2010.8.31
我孫子活動取材記事



3. 他プログラムの概要

(1) 吹田“万博”プロジェクト

スケジュール

日付	概要
3月10日(水)	成田空港 吹田集合、対面式
11日(木)	オリエンテーション、練習
12日(金)	練習
13日(土)	ホストファミリー交流会
14日(日)	ABC フェスタ
15日(月)	ABC スタジオ見学、午後休日
16日(火)	解散

参加者

WCIのツアープログラムへの過去の参加者を中心として、7カ国から10名の参加が得られた。加えて、関西大学の大学生、地元のチアリーダークラブのメンバーなど、同世代の地域住民も練習段階から多く参加して頂き、一緒に創り上げることができた（イベント参加人数は合計20名）。

活動内容

毎年大阪万博の記念日に実施されているABCフェスタに対し、40周年になる今年のイベントに花を添えるため、WCIのブースを出店し、パフォーマンスを行った。また、パフォーマンスなどを通じて、スポンサーである地元のスイーツ店の販売促進活動にも協力した。



(2) 来日オリエンテーション

スケジュール

日付	概要
3月25日(木)	福岡空港 荒尾集合、対面式
26日(金)	オリエンテーション、長崎平和・文化学習
27日(土)	熊本訪問、文化・キャンパスライフトレーニング

28日(日)	ホストファミリーデー
29日(月)	荒尾 別府・立命館アジア太平洋大学

参加者

アジア太平洋大学（APU）留学生 9 名

活動内容

大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（APU）に留学する米国大学生 9 名に対し、ホストファミリーに滞在しながら、文化体験やセミナー、長崎での平和学習等により、日本での生活や学習に準備するトレーニングプログラムを実施した。



(3) ティーチーズイニシアティブ（仮称）

スケジュール

日付	概要
4月18日(日)	福岡空港 荒尾集合、対面式
19日(月)	オリエンテーション、熊本視察
20日(火)	荒尾市長表敬訪問、有明小学校訪問
21日(水)	第三中学校訪問、有明小学校チャレンジ授業打ち合わせ
22日(木)	長崎平和学習
23日(金)	浄土真宗レクチャー、チャレンジ授業
24日(土)	ホストファミリーデー
25日(日)	荒尾 福岡空港、解散

参加者

米国の教員 4 名

活動内容

米国の教員を対象として、日本の教育現場における体験の機会を提供するプログラムの試験プロジェクトを実施した。

参加者は自国以外（日本）での授業を体験すると同時に、自国（米国）との考え方や文化の違いについて理解を深めた。また、彼らを受け入れた学校の児童・生徒にとって、またとない英語学習と国際理解の場となるとともに、日本の教員や学校関係者にとっても、日本におけるより良い教育実現のための示唆を得るきわめてユニークな

機会となった。

さらに、参加者は、ホームステイや文化活動を通して日本の家族や地域社会についても学び、長崎への訪問後は日本の教員や地域住民と歴史認識や核兵器に対する考え方の違いについても意見を交換するなど、生きた情報により多角的に視野を広げることができた。



(4) 異文化チームビルディングワークショップ

スケジュール

4月25日(日)午後1~6時、『日本の大学生と海外からの留学生のための社会で役立つ異文化チームビルディングワークショップ』と題して、JICA地球ひろばにおいて開催した。

参加者

留学生を含め、国内の大学生27名の参加を得た。今後の国内の大学生や留学生とのネットワークへの“種”として、メーリングリスト「WCIクラブ」でコミュニケーションを継続中である。

活動内容

日本の大学生を主な対象として、社会で日常的に出会う異なる価値観や物事の進め方を疑似体験するため、一番わかりやすく(また楽しく)体験できる外国人とのコミュニケーションの設定を利用して異文化の中でのチーム創りを考えてみよう、という基本コンセプトで実施した。また、日本で働いてみようと思う外国人留学生たちにも同様のニーズがあると考え、留学生にも参加を呼びかけた。

ファシリテーションは、専門家の(株)チームビルディングジャパンの協力を得て、言葉を使わないコミュニケーションワークショップなど、数種類のアクティビティとディスカッションで構成した。



4. 今回の成果と今後の課題

(1) 昨年度整理した課題への対応

プログラムの枠組みの見直し

- ・ 参加者を集めにくい春は地域や対象者を絞った別タイプのプログラムを開発していくこととして、従来型のツアープログラムは夏のみとした。

プログラムの構成要素の整理

- ・ LOC の情報共有・意見交換の促進のため、ソーシャルベンチャーパートナーズ東京のご協力を得て、第 1 回 LOC フォーラムを開催した（毎年 の定例化へ）。
- ・ フォーラムを踏まえたメーリングリストの開設により、文化や武道の体験活動、助成金情報などについて、地域間の情報交換が行われた。
- ・ 各地での企画・スケジュールの共有により、同一セッション内での企画重複もなかった。

各地の運営ノウハウの安定化

- ・ LOC フォーラムにおいて実施段階別の運営ツールを提案した。
（コンセプトづくりの段階：各地活動概要シート、LOC 企画・作業スケジュールガイドライン、計画づくりの段階：作業スケジュール様式例、タスクチェックリスト例、実施・事後の段階：滞在スケジュール様式例、プレスリリース原稿例、ホストファミリーアンケート、ホストファミリーハンドブック要素例）

各地組織および地域への寄与

- ・ 吹田プロジェクトは、例年ご支援頂いている ABC、また、イベント参加のためのスポンサーとしての地元商店への協力という位置づけで実施した。
- ・ ツアープログラムでの地域での作業の手伝いや情報発信への協力などの企画は限定的であった。

上田農作業（雨天中止）、取手老舗 PR、豊田農作業・夏祭り準備、我孫子夏祭り準備 等

ブレイク中の支援

- ・ ブレイク中の滞在先や移動手段などが直前まで決まらない状況はあまり改善できなかったが、複数セッションの参加者が少なかったため、スタッフにより一定の対応はできた（依然として、参加者への前倒しの情報提供と計画促進は必要）。



LOC フォーラム 2009 の様子

(2) 成果

- ・ 地域住民と一緒に料理や工作などの参加型企画は各地で好評だった。また、料理だけでなく、各国文化を紹介する機会も参加者・地域双方でニーズが高い。
- ・ 企画が各地独特の“キラーコンテンツ”に絞られてきており、継続実施と力の集中によって運営は効率的・スムーズになって、次のステップへの向上を目指せる段階になってきている。
- ・ 運営と企画の安定により、LOC に活動自体を楽しむゆとりが生まれてきており、参加者グループの中に入って、一緒に活動に参加する光景が多く見られた。
- ・ LOC や HF だけでなく、他の地域住民とふれあう機会も充実してきており、この機会をより広く地域に PR することにより、異文化理解や地域ネットワークなどに寄与する効果が期待される（アイデア例：取手の凧揚げ企画 真夏の凧揚げ“国際”祭りとしての地域行事化 など）
- ・ 参加者数が少ないことは事業としては深刻な課題だが、今回の傾向として、日本語勉強中、女性、若年という共通性があり、小グループの中で短期間できわめて強い絆が生まれた（Facebook 上でコミュニティが形成され、現在でも日本のことを語り合っている）。
- ・ オリエンテーション段階から地元大学生や子どもたちの参加が得られる場合、ありがたうイベントの効果がきわめて高まる（= イベントを一緒に創り上げられる）ことが確認できた。
- ・ 吹田での関西大学、多摩での中央大学と国士舘大学、豊田での名古屋外国語大学、水戸での茨城大学など、大学生との関係が教員レベルともつながり始めている。
- ・ プログラム中の休日における希望者オプション設定が増えたが、熊本城、長崎原爆資料館、東大寺、名古屋城・大須商店街など、休日に何をすれば良いか迷っている参加者たちにとって、単純な観光ガイドツアーはむしろ好評だった。



(3) 課題

- ・ 参加者数を一定レベル確保するメカニズムが整っていない（過去の参加者による国別の“同窓会”組織の設立を促し、リクルート活動との連動を模索中）。
- ・ 6月初旬は北米以外からの参加はあまり望めないことを確認した（2011年は4セッション制への短縮を予定）。

- ・ 過去の参加者、地元の大学生など、多くの人と一緒にプログラムに参加するようになってきていることは望ましいことだが、それぞれの位置づけを明確にする必要がある。
- ・ 2週間プログラムの導入により、参加者の WCI ミッションに対する意識が希薄になる傾向も認められ、申込み時やオリエンテーションなどで徹底していく必要がある。
- ・ 各参加者が自国を象徴するものや紹介したいことなどを持参しなくなってきており、これも事前に徹底する必要がある。
- ・ LOC のノウハウ蓄積や運営の効率化が進み、LOC の主体性が強まっていることはめざしている方向だが、WCI によるケアやコンサルティングが弱まっているという指摘もあり、コミュニケーションを再強化する必要がある。
- ・ メーリングリストなどを通じて、WCI からの情報提供の効率化は進んだが、LOC 間の情報共有や意見交換はいまだ活発ではない。
- ・ いくつかの LOC でメンバーや HF の固定化が課題となっており、企画の質向上のための新しい視点や地域への寄与拡大のためにも協力者の拡充が必要であり、そのためにも各地でより多くの人に知ってもらおう PR・情報発信が重要となっている。
- ・ ツアープログラム全体の短縮や新しいプログラムの開発に伴い、実施地域の割り振り・調整が必要となる可能性がある。

(昨年からの再掲)

- ・ 現時点で WCI から各地協力組織への資金助成は困難だが、例えば、地元製品の PR や物販など、協力組織の資金調達の支援あるいは労働による価値提供などは可能である (むしろ、活動内容の多様化につながる)
- ・ 商店 PR や地域の観光資源の開拓など、地域へのわかりやすい寄与も重要である
取手での老舗 PR ビデオ製作、荒尾での世界遺産登録の推進方策検討など

(4) 関係者の感想

< 参加者からの一言 >

- ・ 最も単純なコミュニケーションさえ難しいときの忍耐、新しい課題に向き合ったときに対応できる柔軟性 などが身についた
- ・ よく知っている“安全地帯”から一歩外へ出てみる勇気と自信が重要だとわかった
- ・ 自分の国や人生に対する異なる視点を持つようになった
- ・ 教師になって、子どもたちに教えたい
- ・ 不安で違和感のあったありがとうイベントを通じて、勇気と自信、楽しめば伝わるということがわかった
- ・ やっと隣国のことを知ることができた。友だちや家族に伝えたい。また戻ってきたい。
- ・ もっと旅したい！もっといろんな人と出会いたい！

- ・ 広島風のお好み焼きが作れる、安来節が踊れる、そばが打てる
- ・ こんなプログラムを自分で作ってみたい、自分の国のことを知ってもらいたい
- ・ お互いが違っていることの重要性、面白さがわかった。何よりも、自分のことが前よりもよくわかった。

<ホストファミリーからの一言>

- ・ 名前しか聞いたことがなかった国の人と知り合えて、生の情報を聞いた。
- ・ 言葉はお互いカタコトだったが、とにかくよく笑った。
- ・ 言葉が通じなくても意思は通じるということを実体験し納得した。
- ・ 日本のことを尋ねられて答えられなかったのが恥ずかしく、勉強しようと思った。
- ・ 日本の文化があちこちに根付いていることを知り驚いた。
- ・ 参加者の滞在中は何とも言えないフレッシュな空気が流れていた。
- ・ 参加者が短期間でつくったありがとうイベントに非常に気持ちがこもっていて感動した。



参考資料

参加者リスト

【ツアープログラム】

	氏名	年齢	出身国	セッション
1	McElroy Kyle	24	アメリカ	1
2	Jackson Kao Ming	20	アメリカ	1
3	Lin Lu	21	アメリカ	1
4	Gallion Daniel	33	ルクセンブルグ	1
5	Amaya Yolanda Dolores	20	アメリカ	1、2
6	Ibragimov Shohruhbek (Sean)	21	ウズベキスタン	2
7	de Rijke Rianne	24	オランダ	2
8	Huang Yuqiong	25	中国	2
9	Liu Xun (Leo)	25	中国	2
10	Wang Weipu (Susan)	20	中国	2
11	Tu Yulin	26	中国	2
12	Blicher Tanja	29	デンマーク	2
13	Smith Ciara	21	アメリカ	2、3
14	Floris Frank	25	オランダ	2、3
15	Marmen Eve	23	カナダ	2、3、4、5
16	Leisner Nicoline	21	デンマーク	2、3
17	Ironside Timothy	19	ドイツ	2、3
18	Derenchenko Liza	23	ロシア	2、3
19	Qing Shao	24	アメリカ	2、3、4
20	Andrews Zakiya	24	イギリス	3、4
21	Bech Aviana	21	デンマーク	3、4、5
22	Bradshaw Meredith	20	アメリカ	3
23	Sieuttani Katerina	24	キプロス	3
24	Sieuttani Elena	22	キプロス	3
25	Almeida Pedro	22	ブラジル	3
26	De Paepe Dieter	22	ベルギー	3
27	Luan Ming	21	中国	4
28	Feng Xiaoxing	24	中国	4
29	Cardoso Ana	19	ポルトガル	4
30	Dorsey Alaina	20	アメリカ	4
31	Murray Kelly	20	アメリカ	4

32	Clark Dayne	19	アメリカ	4、5
33	Cambell Joel	30	カナダ	5
34	松本 捺希	18	日本	4
35	石坂 祥恵	19	日本	4
36	Kamita Moses	26	ケニア	5
37	Asikainen Sanna	24	フィンランド	5
38	Zhou Sida	23	フィンランド	5
39	van der Pol Ilse	18	オランダ	5

各地 LOC 等協力組織（代表）リスト

	都市名	協力組織	LOC 外	代表者
1	熊本県荒尾市	アッピーありあけ		
2	熊本県熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会		前田香代子
3	広島県広島市	ヒッポファミリークラブ西日本		神川孝紀
4	長崎県大村市	NPO 法人 Up with おおむら		大隈和博
5	奈良県宇陀市	室生国際交流村実行委員会		北森義卿
6	長野県上田市	ワールドキャンパス上田実行委員会		ビル・レッティ
7	茨城県取手市	とりでホストファミリーの会		飯村淳子
8	東京都多摩市	ワールドキャンパス多摩		橋本正晴
9	愛知県豊田市	財団法人豊田市国際交流協会		高津康孝
10	茨城県水戸市	ワールドキャンパス in 水戸		高橋明子
11	千葉県我孫子市	住み良いまちづくり研究所		浜崎慶子

	大阪府吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会		三原満里
--	--------	------------------	--	------

スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村 紀公	NPO 法人理事長（リクルート及びスタッフ教育担当）
2	ジェネラルマネジャー	安井 英人	地域コーディネート及び法人総務担当
3	エンrollment マネジャー	ハフォードよしみ	（ツアー外）参加者受付及び国内リクルート担当

(ツアースタッフ)

	担当	氏名	出身国
1	プロダクション担当	Jay Kinsel	アメリカ
2	教育担当	Berthalina Hernandez	メキシコ
3	広報担当	Celiana Dolovitz	ベネズエラ
4	通訳 (兼教育・広報補佐)	三原 有生	日本



協力企業・団体等

	都市名	企業・団体名
1	荒尾市	アッピーありあけ 荒尾総合文化センター、グリーンランドリゾート(株)、小岱工芸館、ベーカリーOWL(アウル)、ホテルブランカ、万田炭鉱館
2	熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会 熊本市、熊本市国際交流会館、熊本市市民会館、国際コンベンション協会、熊本YMCA、パン工房ひまわり、慈恵病院
3	広島市	ヒッポファミリークラブ西日本 広島市、広島市市民局国際平和推進部国際交流課、広島平和記念資料館
4	大村市	NPO法人Up with おおむら 大村市、大村市教育委員会・社会教育課・郡地区公民館、大村市少林寺拳法協会大村西支部、長崎県原爆資料館、財団法人長崎原爆被災者協議会、ビッグカントリージャズオーケストラ、ふれあいのつどい2010実行委員会
5	宇陀市	室生国際交流村実行委員会 宇陀市、室生寺、特別養護老人ホーム「室生園」、東大寺、「ふるさと元気村」、刀匠河内隆平、妙円寺、蓮昇寺、大野自治会、室生自治会
6	上田市	ワールドキャンパス上田実行委員会、 上田市、上田市教育委員会、上田市丸子文化会館、財団法人信州国際音楽村、社会福祉法人まるこ福祉会、平井地区の皆さん、株式会社ミヤマ
7	取手市	取手ホストファミリーの会 取手市、取手市国際交流協会、取手松陽高等学校英語部、油市、(株)新六本店、田中酒蔵、矢羽根本家、クボタ筑波工場、どじょっこの会(安来節)、山本佳代子先生(琴)、武神館(忍者)、取手第二中学校空手部、第0研究室(凧づくり指導)、日本の凧の会、小沼新聞店舗、サークルハーモニー
8	多摩市	ワールドキャンパス多摩 多摩市、多摩市教育委員会、多摩市国際交流センター、東京多摩プロバスケットボールクラブ、関戸公民館、パルテノン多摩、新都市センター開発(株)、多摩清掃工場、エコにこセンター、総合福祉センター、中央大学ほか学生の皆さん、国士館大学体育学部スポーツ医科学科、春日神社囃子連、たま・まち交流館、NPO法人グローバル言語文化研究会GLOBAL多摩、劇団CALL
9	豊田市	財団法人豊田市国際交流協会 任意団体オープンハート、トヨタテクノミュージアム産業技術記念館、おむすび通貨物々交換局、足助観光協会、NPO法人子どもの国、名古屋外国語大学の皆さん

10	水戸市	ワールドキャンパス in 水戸 茨城県国際交流協会、水戸市国際交流協会、独立行政法人日本原子力研究開発機構、特別養護老人ホーム渡里すずらん苑、茨城大学の皆さん
11	我孫子市	住み良いまちづくり研究所 我孫子市、我孫子市教育委員会、我孫子国際交流協会、我孫子市社会福祉協議会、近隣センターこもれび、我孫子市商工会、我孫子かっぱ祭り実行委員会、我孫子南まちづくり協議会、谷津を愛する会、鈴の会、八日会、和寿会、グリーンフィールドズ、寺島トシエハワイアン・フラ・グループ、弥生軒、中央学院大学・川村学園女子大学の皆さん、対面式ご協力（じゅん、アラウオ・ドウドウ）、着付け等ご協力（オフィス SS、我孫子設備、若草幼稚園）、竹制作ご協力（船戸の森の会、緑の会、ふれあい工房）

	吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会 吹田市、吹田市教育委員会、吹田商工会議所、吹田青年会議所、日本万国博覧会記念機構、朝日放送株式会社、コカ・コーラウエスト株式会社、株式会社A・N・S、株式会社アイエスコポレーション、株式会社タイガー珈琲、お菓子司・津村屋、パテシリア「Natsuro」、千里ニュータウンFM放送株式会社、有限会社ナセバーナル、NPO大地の会、千里山まちづくり協議会、関西大学英会話サークルDUCKS、吹田チアリーディングチーム、千里金蘭大学、吹田市国際交流協会、やさしい日本語・北千里教室、吹田草の根会
--	-----	--

【Special Thanks】

合同会社ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京
株式会社チームビルディングジャパン
チャイルド・オアシス・プロジェクト（テーマ曲「KIZZUNA」制作）

【2010 年度助成団体】

独立行政法人日本万国博覧会記念機構
財団法人 KDDI 財団

【会員企業】

ランドマークプロダクツ株式会社
株式会社インサイドクルー
ジャパンエリアコード TV 株式会社

